

早来北進産業廃棄物最終処分場建設の問題について考える 2回目

4月14日、産業廃棄物最終処分場の建設計画にかかる町民説明会を早来北進・早来守田など建設計画地周辺の住民を対象に早来町民センターにて開催し、66名が参加しました。

説明会では、計画に関し改めて反対である旨の町の考え方を説明したほか、参加した住民からは多くの意見が寄せられ、今回の紙面では、住民の方々から寄せられた意見や説明会での町長のコメントなどを紹介します。



参加した住民の方々から寄せられた声

- ・「もっと町民が一丸となって今回の処分場の建設は反対だ」ということを若い人たちにもしっかりとアピールして欲しい。
- ・業者からの地質報告等の信用性が疑問。町の方で、もう一度調査を実施しなければ住民の方も反対しづらいのでは？
- ・具体策が全然見えてこない。危機意識が薄かったのではという気がする。
- ・現職議員数名が「今の状況を考えると、いくら反対しても阻止はできない」と言っているみたいです。それは本当の話なのか、議会議員に確認していただきたい。

など多数の意見が寄せられました。

及川町長の発言～反対理由について～

- 一番大事なことは、企業が周辺住民の理解を得ることだと考えている。
- しかし、これまでの取り組みでは十分に理解を得られる説明をしてこなかった中で、建設工事にかかる許可申請書を北海道に提出した。「住民への理解を十分に得られていない」ということを踏まえ、北海道に提出された計画の反対意見書の提出といった要請等を行ってきているが、なかなか聞き入れてもらえない状況である。
- 町には、環境基本条例があり、周辺住民の方の反対の意思を表明されている。そんな中で、町としても寄り添う形で、基本的に「反対」ということを申し上げている。

紙の街の小さな新聞 ひらく 2021年5月号より

国会の場において、質疑の議題として取り上げられました。

6月4日の国会（環境委員会・衆議院）にて、山岡達丸衆議院議員より安平町における産業廃棄物最終処分場の建設に関する質疑が行われましたので、小泉進次郎環境大臣との質疑を抜粋。

小泉大臣の「環境保全の確保に加えて、地元住民そして自治体の理解を促進することが重要。必要な後押しをしていく」という答弁に対し、「理解が進まぬ、共生が進まぬ状況は、その状況を改善してこそ設置が進むのであって、改善していない状況を改善するということに対しての後押しという趣旨でよろしいでしょうか？」と質疑した。

それに対し小泉大臣は、「地域の理解と協力をいただいて進んでいくことが望ましいというのは、それはそのとおりです」と答弁した。

■次回

安平町の話しが、国会でも取り扱われたように、令和3年安平町6月議会においても審議された事項があります。この内容については、次回取り扱う予定です。

この記事に関する問合せ 税務住民課住民生活グループ ☎ 2940